

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 吉岡耕治

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

獣医学科生産獣医学系の教員として、臨床繁殖学分野に関する教育活動を中心に行っている。主たる授業科目は獣医臨床繁殖講義および獣医臨床繁殖学実習であり、加えて動物応用学科における家畜人工授精特別実習、動物生殖制御論講義のほか、産業動物臨床に関する講義・実習を担当している。臨床繁殖学は、生殖器や生殖子の構造と機能、生殖機能の内分泌学、性成熟や発情周期の調節機構、人工授精・胚移植などの繁殖技術、受精・着床・妊娠・分娩メカニズムならびに繁殖衛生学や妊娠期～分娩前後の異常に関する事象等、多岐を含む学問であり、これらの分野を中心に教育を行っている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医臨床繁殖学	獣医学科	必須	4	134
獣医臨床実習	獣医学科	必須	5	170
産業動物獣医総合臨床	獣医学科	必須	5	155
産業動物臨床実習	獣医学科	必須	5	153
総合獣医学	獣医学科	必須	6	163
獣医学概論	獣医学科	必須	1	135
獣医畜産管理学	獣医学科	選択	3	150
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必須	5	4
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必須	6	1
卒業論文	獣医学科	必須	6	1
産業動物臨床基礎実習	獣医学科	選択	1	128
牧場実習	獣医学科	選択	2	154
産業動物アドバンス実習	獣医学科	選択	6	2
家畜人工授精特別実習	動物応用科学科	選択	3	50
動物生殖制御論	動物応用科学科	選択	4	35
臨床繁殖学特論	獣医学専攻	選択	1	0
臨床繁殖学特別演習Ⅰ	獣医学専攻	選択	1	0
臨床繁殖学特別実験Ⅰ	獣医学専攻	選択	1	0
臨床繁殖学特別演習Ⅱ	獣医学専攻	選択	2	0
臨床繁殖学特別実験Ⅱ	獣医学専攻	選択	2	0
臨床繁殖学特別演習Ⅲ	獣医学専攻	選択	3	0
臨床繁殖学特別実験Ⅲ	獣医学専攻	選択	3	0
臨床繁殖学特別実験Ⅳ	獣医学専攻	選択	4	0

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

臨床獣医師は、症状から検査法を探り、診断を通して病因を見極め、それに対応した治療法を施すという作業の中で、知識や技術だけでなく、未知の事案に対する対処の方法を導き出す力が必要とされる。これは研究のための道筋と同一であり、単に職業訓練として獣医師養成だけではなく、教育や研究を通じて「自ら考える力」、「問題解決能力」を持つ学生を育てることを目指したい。

畜産においては効率的に乳や肉を生産するためには動物を妊娠・分娩させることが不可欠であり、産業動物臨床獣医師の役割としては、繁殖診療も大きなウェイトを占めている。また、畜産に限らず、ヒトの不妊治療や野生動物の遺伝資源保護など、様々な分野へ展開が可能な学問であり、臨床繁殖学を学ぶことで、生命の成り立ちや結びつき、大切さを知ってほしい。

研究室における指導については、臨床繁殖学に関する知識をより深化させ、卒業研究を通して、未知の課題を解き明かすための考え方、進め方を模索し、探究する経験を積んでもらうことで、問題解決能力の向上を図る。また、研究の最終的な出口として、「生産現場で活用できる」研究を進め、教育・研究の両面から学生を指導することで、将来を担う「人」を育てることを目標とする。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

臨床繁殖学については、まずはモデル・コアカリキュラムに準拠した内容を過不足なく学んでもらうことを基本とし、自らの実験データや最新の知見を踏まえ、生産現場で活用されていたり、問題となっている事象について、具体例を示して伝えるように心がけている。実習においては全体説明のほか、少人数（班・テーブル）単位で学生に声をかけつつ、その実習の背景を含む意義や操作手技として「何故それが必要なのか」を考えさせ、学生が「気づき」を得ることを心がけている。

研究室における教育については、学生に「どうすればよいですか」ではなく、「こういうふうにしようと思いますが、どう思いますか」と聞けるような環境と、自らが主体性を持って取り組む自覚を持ってもらうように心がけている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

コアカリキュラムに基づいた講義内容で学習すべき内容が多いため、現状では双方向性の講義は検討できていない。学習内容を能動的に活用するトレーニングは獣医総合臨床実習および参加型臨床実習（産業動物臨床実習）内で行っている。

(2) ICTの教育活用

有

講義では、リアルタイムおよびオンデマンド、実習ではオンデマンド型の動画配信を行った。可能であれば動画資料を講義に取り入れるようにしている。講義内容に、産業動物臨床現場におけるデータ駆動型飼養管理事例を取り入れ、畜産におけるICT利用の現状、将来の発展性などを紹介している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

スライド資料の作成にあたっては、配色にユニバーサルカラーを用いることに留意し、色覚の多様性を考慮して、全ての人に情報が正確に伝わるように配慮した。また、視覚的に見やすいフォント、サイズを選択するとともに、可能な限り、写真、図、イラスト等を配置することを心がけた。臨床繁殖学の講義内容は、前半の繁殖生理に関する部分と後半の繁殖技術、繁殖障害などの応用、疾病に関する部分に分かれているが、それらを結びつけて考えられるように説明することを心がけている。

(2) 学生の理解度の把握

A

講義後に講義内容に関する小テストを「學理」を用いて実施している。小テストの問題は、講義を受講し、配布資料を理解すれば容易に正答が得られる内容を設定している。その他、レポート課題、定期試験により、学生に理解度を確認している。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

講義資料は、事前に「學理」に掲示し、予習を促すようにしている。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

講義の終わりに、質問を受ける時間を設け対応しているほか、メールによる質問については、可能な限り早急に対応するように心がけている。また、必要に応じて後日解説を加えている。実習では、質問しやすい環境を作るように配慮し、こちらからも質問することで自ら考えることも促すことを心がけている。

(5) 双方向授業への工夫

A

実習においては班ごとに単位で学生に声をかけつつ、質問を受けながらディスカッションを行い、知識の確認に加え、学生の理解度に応じて発展的な内容の説明を行っている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

総合獣医学講義において、過去の問題の出題傾向を示し、学習すべきポイントを示している。また、出題しやすさという観点からも解説を加え、繁殖生理に関する部分と繁殖技術、繁殖障害などの応用、疾病に関する部分を結びつけて考えられるように説明、解説している。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

担当講義や実習の授業評価は、学部平均スコアを概ね上回っており、内容に問題はないと判断したため、基本内容は変更せずに適宜アップデートをしている。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

図や写真を多用するように心がけており、スライドがわかりやすいとの評価を得ている。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

スライド資料については、理解が高まるよう、さらにブラッシュアップしていく。講義については、重要なポイントを精査し、メリハリをつけた講義となるよう心がける。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

近年の国家試験における出題傾向なども参考にしながら臨床繁殖学で重要と思われる内容については、講義や実習で繰り返し説明している。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

授業評価アンケートでは、スライド資料については、見やすい、わかりやすいとの評価が多かった。一方で、講義範囲が広く、1回の講義内容が多いという声があった。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

毎年度のFD講習に参加している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

教育や研究を通じて「自ら考える力」、「問題解決能力」を持ち、将来を担う「人」を育てるため、まずは、双方向授業やアクティブラーニングを行える環境を整えていきたいと考えている。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

シラバス、小テスト、配布資料、レポート課題、試験問題、教材、授業評価データ、授業に関するコメント。